

学校だより 7月号



平成19年 7月 2日

京都市立稲荷小学校 校長 吉田茂雄

.641-0057 Fax.641-7660 <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/inari-s/>

早いもので、もう7月(文月・July)となりました。学校では、毎日プールから歓声が聞こえています。あと、3週間しっかりと学習をして、夏休みを向かえます。

明日3日(火)は自由参観日です

本校では「毎日が自由参観日」としてありますが、(なかなか行きにくくて...)という保護者の声をよく聞きます。そこで、一応明日を今月の「自由参観日」に設定しました。本来、時間の空いたときにいつでもお子達の様子を見に来ていただけますので、遠慮なさらず学校に足を運んでください。

学校評議員のみなさんです

今年度の学校評議員のみなさんが決まり、6月5日に第一回の会合をもちました。今年度は12月より「学校運営協議会」となり、地域の声をより学校教育にいかしていく組織になっていきます。評議員の皆さん、よろしくお祈りします。

<敬称・役職略、順不同>

中澤 勝男・中澤 義和・横江 キミ子・服部 晃佳・林 和宏・平川 智章・
三上 栄子・西村 雅憲・黒瀬 隆夫・前川 喜美代・絹川 博英・森川 博子・
小西 尚子・大西 正子・岡村 猛・久保田 修司・郷 正清・繁 隆夫

8月27日(月)から勉強、28日(火)から給食が始まります

8月の最終週より勉強と給食が始まり、通常の学校生活に戻ります。厳しい残暑が予想されますが、各教室には冷房設備が整い、快適な環境の中で学校生活がおくれます。保護者の皆様も、従来の夏休みのリズムと変わりますので、ご協力よろしくお祈り



します。なお、8月28日(火)には、5・6年生が校外学習で丹波にある京大附属牧場に出かけ、動物の生態を探ってきます。

話し方・聞き方の練習をします

今年度、稲荷校では子ども達に「話し方・聞き方」の力を全校的につけていこうということになりました。授業で得た学力は、先生や友達とのコミュニケーションの中からより確かなものになっていきます。

以下のレベルを上げていって、自分の思いをいきいきと述べ合える稲荷の子に育てて行きたいと思ひます。

<話し方のレベル>

返事ができる。「はい。~です。」

自分の考えを話せる。「わたしは、ぼくは、~だと思います。」

友達の考えとつなげて話せる。

「 ~さんと、同じで(ちがって)(つけたして)~だと思います。」

自分の考えをみんなに聞ける。

「 ~さんの意見について、わたしは、ぼくは、~と思ひます。どうですか。」

<聞き方のレベル> 「聞く(Hear)」から「聴く(Listen)」へ

静かに聞ける。...誰かが話し出したら、静かにする。

話し手の方向に体を向けて聞ける。...話している人の方を向いて話を聞く。

話し手に心を向けて聞ける。...話している人の目を見て話を聞く。

自分から心を向けて聴ける。...話し手が何を言おうとしているのか、しっかりつかもうとして聴く。

「自問」しながら聴ける。...話し手が何を言おうとしているのか、自分の考えと比べて聴く。

話し手の心を聴ける。...話し手の気持ちやおもいをわかるようと、深く聴く。



子どもの目、子どもの心

「わたしたちが生まれたとき」～2年生の作文から

生まれたときの赤ちゃんは、こんなにおもたかったんだと思いました。

おなかの中に、5人も赤ちゃんが入れることにびっくりしました。赤ちゃんがおもたいのを知らなかったです。大人になってから、ミルクをのませたいです。ぼくはじょうずにあかちゃんをだっこできなかったの、お母さんはすごいなとおもいました。

赤ちゃんをはじめてだっこしてみたら、いがいと重くてくやくにやっていた。本当の赤ちゃんやったら、もっとむずかしいだろうなと思いました。

はじめて赤ちゃんをだっこできてうれしいです。おとなになって、わたしが赤ちゃんをうんでだっこするときは、どんな気持になるか、たのしみです。

40しゅうかんもおなかの中にいるなんて、びっくりしました。おなかの中に入っている赤ちゃんが、さかさまに入っているのも、びっくりしました。

先日の日曜参観日の授業で、2年生は性教育「わたしたちが生まれたとき」という内容を学習しました。保護者の皆様には、事前に生まれるまでに気をつけていたこと、生まれたときの気持、今日までのエピソードなどを書いていただき、当日の授業を迎えました。子ども達は、約3000gの赤ちゃんの人形をだっこして、上のような感想をもちました。

学校教育目標『心豊かに自ら学び いきいき活動する子どもの育成』の目指す子ども像の一つに「生命と健康を大切にす 心豊かな子ども」があります。最近の子どもは「自己肯定観(セルフ・エスティム)」が弱く、(どうせぼくなんか...)とすぐに思って自暴自棄になりがちです。でも、この世に生まれてきた大切な生命。愛されていない子は一人もいるはずがありません。自分も他人も大切にして、有意義な毎日を送ることを学校でも学んでいきます。



家庭を学びの環境に～「家庭学習の手引き」から

市教委等編纂のパンフレット「家庭学習の手引き」(右の写真)の裏表紙には、『家族の宿題』として次のようなことが書かれています。



子どもの目を見て会話をしよう。

「おはよう」と朝のあいさつを交わすことから一日が始まります。じっくりと語り合いの時間が取れる日ばかりではありませんが、わずかな時間でも心がふれあえるように、子どもの目を見て話を聞き、うなずき、話し合いましょう。

一緒に家事をしよう。

子どもも大人も家事の役割を担い、協力して家庭を支えています。家族の一員として掃除や料理などを分担しながら、それぞれの存在の大切さを確かめ合いましょう。

一緒に本を読もう。

まずは図書館や本屋さんで本との出会いを楽しみましょう。そして、その本を読みかかせたり、感動を語り合ったりして本に親しみましょう。

一緒に出かけよう。

散歩がてらの自然観察、スポーツ、清掃ボランティアや地藏盆などの地域行事など、子どもたちとの活動の幅を広げ、ともに汗を流したり、語り合ったりしましょう。

立ち止まって、一緒に「答え」を探そう。

身の回りのこと、社会の出来事などに目を向け、子どもの素朴な疑問を大切にし、答えを教えるのではなく、一緒に考える機会を大切にしましょう。

家庭で子どもたちと過ごす時間をゆったりと取れる夏休みなどは、子どもの成長を実感し、家族の絆を深める絶好の機会です。身近なこと、無理なくできることから『家族の宿題』として子どもたちと約束し、一緒に始めてみましょう。

学校でも家庭でも、子どもたち一人ひとりを十分に理解することがまず大切です。子ども達のために、ご家庭でもできることから始めてみませんか。

図書ボランティア募集中!

別紙にてお知らせしたように、学校の図書が、全冊バーコード処理され電算化されます。大変な作業となりますので、是非ともお力をお貸しください。

